

麻疹（はしか）は死ぬ病気

2007.05.01

インフルエンザのひと月遅れの流行がようやく収まったと思ったら、函館では嘔吐や下痢を伴う胃腸炎が流行中です。季節の変わり目で喘息のお子さんも久しぶりに発作を起こして来院するなど、こどもにはあまりよろしくない季節になったようです。

先月の中旬ころから、関東、特に東京や千葉で麻疹の報告が相次いでいます。大学で流行したり、高校や中学で流行してインフルエンザのように学校閉鎖になったなど、その流行規模はたぶん今まで経験したことのない規模であるようです。

昨年の6月からMR（麻しん・風疹混合）ワクチンが1歳児と5～6歳児の2回接種として始まりました。昭和53年から始まった麻しんワクチンを打ったお子さんたちは、ワクチンの接種により周りから麻しんの流行が少なくなり、病気が流行することで自分の麻しんに対する抵抗力が増すというブースター効果といわれるものがなくなりました。とくに、中学生以上の大きなお子さんや成人が今の麻しんの流行の中心を占めているということを見ると、ワクチンを打ったものの抵抗力が低下している状況であろうと思われます。

MRワクチンを含め、麻しんワクチンを打つとおよそ95%のお子さんは麻しんに対して十分な抵抗力を得るとされています。今年小学校に入ったお子さんからは2回接種になっていますので、麻しんに対する抵抗力はほぼ問題ないと思われますが、1歳前や1歳を過ぎてもワクチンを打っていないお子さんが流行地域の東京地域に出かけると、麻しんウイルスは容赦なく襲ってきます。ウイルスの感染力は最強ですれ違っただけでも移るといわれています。接触してから2～3日の間にワクチンを打てば予防することは可能ですので、かかりつけの先生と相談してください。

麻しんの潜伏期は10～12日です。連休で本州方面特に東京方面にいったお子さんが、麻しんを函館地域に持ち込むのは5月10日以降と思われる。そのころからの発熱は要注意です。麻しんは死ぬ病気です。ワクチンがまだのお子さんは早急にワクチンをしましょう。